釈西阿傳

半の浦より住々猟師となりて暮しけるが年頃の程いかなる仏神に祈誓を掛けしかの乳母と呼ばれし女房の夢に見たりしの事ありしかば乳母の子八歳の春より出家せしむ独鈷を学ぶ一を聞て十を覚る程なりしかば敬化寺なる僧となりて敬化寺なる僧となりて諸国巡礼の願人となり天竺に渡り諸国を出て諸山を尋ねて一百の食事麦二合とりやう浜西浦郷に住て敬化せられて人信ぜざるわり徳行のいとなみ怠らず南陽紀の塩津山に籠り由是文文の頃の人師とやや年少南陽紀州の在に一寺院あり山に入て稱名を唱へ食時をそなへまゐん二合とやうの所にて山に入て稱名を唱へ食時をなす厳寒の比も未裸にて稱名を唱へ

かるよ九条のけいと纏ひ引ひ流とゝろや手法石
沈徳おとゝ由人〳〵ハ国刑場津の山よりおとゝ
ろんゝ〳〵西阿ゝ再来ろんゝ
梁田主膳正基安ハ勝家ゝ一族ゝ引市山の麓ゝ備〳〵
行市山よりる敵と戦ん〳〵岩と搦ん一戦の中御よ
病死と男ろゝ〳〵暇ハ人ゝ婦と八重幡ゝ
十有九戈妹と小伊ゝ〳〵十六歳成ゝ婦女か
ゝ心別ゝ〳〵級除ゝ父基安古稀近ん
と常事記ゝ出陣の法と思て岩よまる文
死と遺骸と国よ送ゝ又梁ゝ瀬よ送ゝ父のことを

法ゝ婦妹岩と申ゝ武ハ勇士と舌と巻
一戦破の後加国ゝ入勝家ゝ妻女ハと言ゝ死と
稀ハ婦妹ハ世の俗書ハ世事ゝ〳〵
かゝ〳〵ん〳〵や交ハ法
筑前秀吉ハ筒井ゝ和ゝ也ハ〳〵ゝ名かけ
軍と為ハ敵勢破件のいきとひあ中味方歴と
の氣有ゝ〳〵ゝ茶臼山ゝ諸の麓と〳〵
秋月と数百ゝ也山ゝ〳〵ゝ〳〵せ
軍勢数百の旗と為ゝ敵手勢の初ハ〳〵と
勢ゝ〳〵氣と〳〵婦方真氣と増ゝ〳〵山

芝原おしまくり立てかしこ果て瀬行市山の陣より
是を見れば無多勢と見て味方より
遠に見て時い力を得て是秀吉の兼て敷
うに深き谷しまくり曲を進めの者ども
今の山を見るに回道なりしかるに
御を横延府正成の宮都を築しうなの例は
惟を后世秀吉の世の松明と称を下ろ
い此利を不知の者法に附会して説て
第田を前新田湖に横を事は地利を知て
茶臼山の迴道とも知る面しかるに法面

かしうの一るり義濃の本陣に茶臼山と
通しきり道ふかしに梅谷より蹄り嶽の裏山を
登るしきる交に来れ利なし是信用とぐ
さ法の二ッも若直に勝家是を等なし都を
軍略の微妙と知しを味方の弱と師面
秀吉ろんに加やりの法をとくや茶臼山の
見て見び付世りの法よりつきり見り松明なく
いる説るるしを時敵を遠りの法をせんとな
しい間者を敵のうしろを設と流させ又若別
小濱小船をひしくに仮小責の猶をおき勝家

并作人間もいとたまりもせず忍れ川渡めぐ
紅さ味方の損亡のごとく必勝の所と思ひつゝ
尚信義の戰ひとうとして本城よ仕ふとして遠州
毛利古宮とん和を結ひ織田家の重臣を情み
明智忠をこれの味を述べ勝家と共を保つ
のみ終ひ行くといへども其信を感じ亡君の
妹なる小谷の方も命よりたもうこの施仁も
海を指る時しの水四海の君家なん
小信義業もなかりしかも唯二世にして
業をなす秦の始皇帝と同日の人か

賤ヶ嶽諸陣所道法

一 羽柴家より陣所ヶ嶽より 三里
蕃家より陣場ヶ瀬迄 拾九里余
一 濃州清洲より賤ヶ嶽迄 一里但五十丁
一 羽柴秀長の陣所より本陣迄 四十町
一 大岩山より陣迄 廿五町
一 柴田山より陣迄 三十町
一 同藤迄 二町
一 三ヶ山より陣より大岩山迄 十町
一 岡秀長より陣迄 三十五町
一 筒井陣より本陣迄